



菊水中学校 三年 坂口 輪花

『当たり前前って?』

昔から体が弱く、病院には毎年のようにお世話になっていた私。今は毎日飲まなければならぬ薬もある。今までは、「そんなの当たり前のことじゃ

ないって知ったのは去年の春頃のことだった。いつものように見ていたテレビで、貧しい国のことが流れていた。病院には行けないし、きれいな水もない。その事実には私は驚いた。そこで、ふと疑問に思ったことがある。「なんで日本では病院に行くと、薬をもらえることが普通なんだろう。」

思った。そのことを学んだのは、つい最近のことだ。社会の授業で税金について学ぶ機会があり、税理士の方がいらつしやう。私はそこで、初めて知ったことがたくさんあるが、特に驚いたことが二つある。一つ目は、税金の種類の数。なんと五十種類もあるらしい。いくつか聞いたことがあるものもあったが、ほとんどは聞いたことのないものだった。中でも驚いたのは、たばこ税と酒税だ。そんなところにも税金があるのかと、ものすごく驚いた。二つ目は、私たち、中学生の一人当たりに使われる税金の額だ。その額、約百万円。あまりにも高いその額に、私は目を見開いた。「えっ、」

あまりにも予想外すぎるその額に、声も出なくなる。当たり前のような学校生活の裏にも税金が使われていることを知った。私はこれから、当たり前前に暮らしていることの裏には、税金がある、ということ意識していきたいです。また、税金の存在に感謝して、病院に行ったり、学校に通ったりしたいです。そして、大人になったら、ちゃんと税金を納めて、今ある当たり前前の生活が続けられるようにします。



菊水中学校 三年 相澤 由依子

『税金のありがたさ』

自分のお金は自分で自由に使えるようになり、一人で買い物することが多くなった。値札を見て頭の中で計算し総金額を出す。だが、レジに行くとき以上の金額だったりする。値札には本体価格は大きく表示されているが税込みは小さくかっこで書いてある。それを見ていつも「税込み価格だけ書いて」と思ってしまう。でもそういう時にふと税金はなんでかけてあり、そのお金はどこに行くのだろうと疑問に思った。

学校で税についての講話があった。道路や警察、教育、病院。税金は私たちの生活している様々など使われていることを学んだ。それに私たち中学生も一人当たり百万円負担していることを知った。税金が無かったら当たり前前の生活はどんなことになっていたか。考えてみるだけで少し怖くなる。

私は歯医者に行った時、たぐさんの医療機器で検査をした。写真を撮ったり、歯に薬を塗ったり、もちろん先生による治療もした。それプラス歯みがき指導も受けた。約二時間による歯の治療だった。会計で母と一緒に

レジに行った。するとモニターに写し出された金額は九千八百八十二円。私は思わず「わお。」と声が出してしまった。でも会計の人がまたレジを打ち出した。また金額が上がるのかとドキドキした。するとモニターに出た数字はたった千円。「ん?」私はゼロを一つ数え間違えたかともう一度確認したがゼロは三つでやはり千円。その千円は歯みがき指導の時に使った歯ブラシ代。歯ブラシ代にしては高いと思ったが、九千円が千円。どんな魔法を使ったのか。私は帰りに母に聞いた。すると母は「町の税金で払われているからだよ。」と言った。私はびっくり母お得意のクローポンとかを使ったのではと聞いていた。「国の税金ではなくて町の税金なの?」と聞くと母は、「うん。高校生まで医療費を払わなくていいんだよ。でもこの取り組みは和木町だけだよ。」と答えてくれた。この時初めて和木町の取り組みはすごいなと思った。そして母の財布に優しい税金に感謝しないとけないなと思った。

税金は私たちの生活を豊かに健康で生き残るためにあり、みんなが公平に税金を納める。税金があつてこそ私たちの生活が成り立っている。今、私たち中学生は多額の税金は納めていない。しかし近いうちに社会人となり税金を納めていかなければならない。今まで、私が受けた恩恵のためにしっかりと国民の義務として納めていきたい。



菊水中学校 三年 田川 響己

『税と共に生きる』

昨年僕が通う学校では校舎の大規模な改修工事が行われている。おかげで、教室にエアコンが付き快適に過ごすことができています。以前、授業の途中に先生が「この改修工事は、和木町の未来を背負っていくあなたたちのことを考えて、町が何億という大金をかけて工事しているんだよ。」

と言われたことがあった。僕は、ありがたいと思うと同時に、そんな大金どうやって生み出しているんだろうと思った。実は工事は大人の人たちが納めている税金で行われているということ僕らは後から知った。

税金には、消費税、固定資産税、自動車税、所得税、相続税、贈与税など約五十種類もの税金があるといわれている。それらの税の名前は難しく、聞いたことのないものがほとんどである。その中でも、僕たち中学生でも知っていて、一番身近にある税が消費税である。消費税は、ある商品を買う人全員が同じ額を平等に

納める税である。僕は、よくコンビニに行く。そこでおにぎりを買おうとすると、おにぎりの本体価格は百円と書いてある。しかし、商品を買うときはその商品の本体価格の八パーセント税金を払わないといけないので、最終的に百八円を払わなければならない。僕はよく商品を買った後の帰り道で

「値段が百円だったら、百円玉一枚で済むのに、消費税があるからプラス八円を払わなきゃいけないのは面倒くさいなあ。」とボソッとつぶやく。しかし、自分たちの学校の工事が税金で行われていることを知って、自分が納めた消費税が、日本のどこかで誰かのために使われているんだと思うと、何だか誇らしげな気分になった。よく考えると、中学校までは義務教育で学費はほぼ0に等しいし、教科書だって無償で配布されている。僕が体調を崩した時だって、いつでも無料で病院に行けるから健康に暮らせる。他にも、事故や事件があった時はいつでも警察に言えるから日本は治安がいい。火事が起きた時、呼んだらすぐに消防が火災現場に駆けつけてくれるから、最小限の被害で済む。こんな風に税金のおかげで、日本の世の中はまわっている。今、僕がこうして教科書を開いて勉強できているのも税金のおかげだ。世の中のいろんな人が納めている税金によって勉強ができていて、このことを忘れずに、受験に向けて一杯勉強しようと思った。



三加和中学校 一年 鍋島 彩里

『税金と私』

「税金。」私はこれがどれだけ私たちを救ってくれていたのか知らなかった。

小学生約八十七万円、中学生約百万円、高校生約九十八万円、小学生から高校生までの科学振興費をすべて合わせると、とんでもないほどの額になる。「こんなにお金をいただいていたのに、。」私は少し情けなくなつた。「宿題したくないな。」

「早く授業終わらないかな。」なんて思っていた自分が。私たちは今、たくさんの方々から集められた税金のおかげで学習することができています。つまり、たくさんの方々の協力の上に、私たちの学びがあるのだ。一人一人の教科書、ノート、机、いす、各クラスに必ず一つはある黒板、棚などの、あらゆる所に税金が使われている。こんなにもいろいろな場面に使われている税金が、もしなくなってしまうたらどのようなことに

なるだろうか。きっと今の生活より良くなると思はれない。一回一回、授業を受けるため、五百円を払い、学費もすべて払わなければならない。家庭への負担が大きくなり、学校に行くことのできない人が増えていくと思う。もっと視野を広くして日本全体のことを考えたらどうだろうか。ゴミの収集・公共の施設の清掃などが行われなくなり、環境が悪くなつていく。道路や信号の整備も行われなくなり、事故が多発することだろう。さらに年金も届かなくなり、少子・高齢化が進む一方で苦しむ人々が増加していくだろう。このように考えていくと、税金がない世界は少なくともみんなが幸せだと言えるよりよい世の中にはならないということが言える。

今の私たちにできることは、税金について知り、関心を持つということだと思ふ。これから税金と共に生きていく中で税金の大切さをしっかりと心に留めて、しっかりと感謝していきなさいと思う。互いに助け合っていくように、素晴らしい税金というシステム。私が成人になったら、払う立場になる。日本にはたぐさんの税金の種類があるが、この自分の払ったお金が、誰かの役に立っていると確信し、納めていきたいと心から思う。